

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事例概要について】

• •

1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリ
2. 体験した事例の名称	救急事案で、酩酊状態の傷病者が急にカッとなり、当事者を殴った。
3. 体験した事例の中心的要素	「下肢の痛みを訴え、路上に倒れている。」という通報内容で救急出動、観察の結果酩酊状態（飲食店で酒を飲んだ帰り）、下肢の痛みを訴えているものの、外表面の異常所見なし。救急車内収容後バイタル測定、当番医療機関へ受入依頼したが酩酊状態の為受入拒否的回答。傷病者に受入できないと説明したところ、突然態度が急変し、自らの指に装着していたモニターのプローブをストレッチャーの床に叩きつけた。この行為に対し当事者が傷病者を注意したところ、傷病者がいきなり右パンチ（フック）で当事者の左顔面を殴り、感染防護用に装着していたマスクとゴーグルが飛ばされた。瞬時に避けた為、幸いにも顔面の負傷は免れた。
4. 体験した事例の原因・理由	①酩酊状態により、前頭葉の機能（理性を保つ働き）が低下していたこと。 ②医療機関から受入拒否的回答を得、拒絶された絶望感。 ③自らとった行為に対し、傷病者より若年である救急隊員から注意されたことに対する苛立ち。

【体験した事例の直接的原因について】

• •

1. 体験した事例の直接的な原因	状況判断に問題があった。
------------------	--------------

【体験した事例について】

• •

1. 発生日時	平成 20 年 12 月 27 日 午後 10 時頃
2. 発生した当時の天候	晴
3. 発生した活動現場	屋外：デパート前・一般道の路上
4. 体験した事例の種類	他人が、回答者を負傷させた。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	軽傷の怪我をしていた（させていた）だろう。
6. どのようなことが起きたのか (起きそうになったのか)	その他：殴打
7. 事例体験時の活動	救急現場活動中期、 []
8. (7の活動中) どのような作業中に発生したか	その他：車内活動
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	これまでに 1, 2 回程度体験している。

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[36]歳、 勤続年数[10]年、 現場経験年数[7] 年、 階級[消防士長]、 同様の活動 [過去に1,2回程]、 任務 [隊員]
○当事者B	年齢[]歳、 勤続年数[]年、 現場経験年数[]年、 階級[]、 同様の活動 []、 任務 []
○当事者C	年齢[]歳、 勤続年数[]年、 現場経験年数[]年、 階級[]、 同様の活動 []、 任務 []
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	傷病者	自身の指に装着されていたモニターのプローブを外し、ストレッチャーの床に叩きつけた。	
経過2	A	傷病者行為に対して注意した。	
経過3	傷病者	右拳でAの左顔面を殴り、Aのゴーグルとマスクが飛ばされた。	
経過4			
経過5			
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			

【その事例発生時の状況について】

• •

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか?

ヒヤリハットの場合 : ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか?

集中力、注意力があった。避難・退避がうまくいった。たまたま、負傷事故にならなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかつた。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかつた。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった（寒かった）。	はい
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躊躇したり滑りやすかつた。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかつた（適切な指示を与えられなかつた）。

・活動指示が得られなかつた。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあつた。	いいえ
・指示内容が実施困難であつた。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

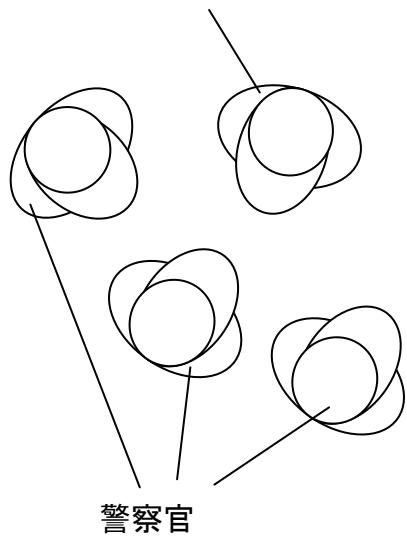
l. その他の理由があつた。

いいえ

N
45°

デパート

救急隊長(警察官と対応の協議中)



機関員

当事者A

傷病者(ストレッチャーに坐位)

